

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒

大楠山ーセンチメンタルジャーニーー

湘南国際村側から眺める大楠山



11月中旬の好日、横須賀に住むS君の案内で、三浦半島の大楠山（241m）に出かけた。かつて防大（当時保安大）の新入生当時、上級生に連れ回されたハイキングコースである。60余年前に帰ってのセンチメンタルジャーニーとあって、S君が張り切って計画してくれたのが、塚山公園～大楠山～子安の里を巡るロングコースハイキングだった。終って見れば総歩数27000歩。

10時安針塚駅を出発し、町中の狭い登り道を歩いて10時半、塚山公園到着。眼下に横須賀港を見下ろし、その向こうの緑濃い台上に、白亜の防大校舎群を見はるかす。往時の砂塵に霞む小原



塚山公園展望台

しの懐旧展望の後、公園の中の三浦按針夫妻の墓にも殊勝に拝礼して、やおら大楠山に向かった。車の往来の激しい横須賀道路をエッチラ歩き、途中のコンビニで道草したりして12時、阿部倉温泉下から大楠山登山道に入る。その昔、カッターを漕いだ久里浜・平作川の源流をなすこの沢沿いの登山路は、深山幽谷の趣きがある。やがて道は木段になり次第に傾斜を増し、息を切らして登りきった所が尾根筋で、昔懐か

しい衣笠城址への分岐。

以後の緩やかな尾根道は、片側にゴルフ場のフェンスが延々と続く。葉山国際ゴルフ場とかいう名門コースらしいが、60年前にはこんな無粋なフェンスもゴルフ場も確か無かったと思うんだが。

ともあれ13時、大楠山山頂到着。往時とは全く様相を異にし、山頂広場の一角に立派なビジターセンターと展望台がある。展望台からの眺望は抜群。東京湾と房総半島、相模湾と伊豆の山々、そして富士山が一望出来た。

30分の昼食休憩の後、子安の里を案内したいというS君



山頂風景

に乘せられて、山頂から北方、湘南国際村に向け下った。いかにも高級住宅地といった感じの湘南国際村を、裏のフェンスを乗り越えて縦断し、表口から子安の里に足を延ばした。平家の落人集落ともいわれる子安の里は、丘陵地に点在する民家と屋敷林、日当たりのいい傾斜地の畑、路傍の庚申塚群など、かつての日本のふるさとの佇まいを今に残す景観がいかにも好もしいが、すっかり歩き疲れ、15時半に久留和のバス停に辿り着いた頃には、一同不満タラタラだった。

山頂から眺める富士山と江の島

